

令和3年度いわき市病院事業会計決算の概要

- 1 当センターは、28の診療科を有し、病床数700床により、福島県浜通り地方の高度急性期医療を担う中核病院として地域住民の健康保持に必要な医療を提供しております。
- 2 年間総延患者数は、入院が162,505人、外来が217,643人であり、前年度と比較し、入院は2,257人の増加、外来は4,492人の増加となりました。入院は、主に消化器内科、循環器内科の患者が増加し、外来は、主に小児科、産婦人科の患者が増加しました。
- 3 収益的収支は、収入が前年度に比べ0.5%減の246億5,775万968円、支出が前年度に比べ5.5%減の223億7,406万2,233円となり、22億8,368万8,735円の当年度純利益を計上することとなりました。
 - (1) 主な収益的収入としては、新型コロナウイルス感染症が流行する中、受診する患者数の変動が落ち着きを見せ、紹介患者数の増等により、患者数が増加したこと等から、医業収益が前年度に比べ2.4%増の176億9,507万6,940円となりました。なお、患者一人一日当たりの収入は、入院が80,908円、外来が18,567円であり、前年度と比較し、入院は244円の増加、外来は527円の増加となりました。一方、医業外収益は、病床確保料等の財政支援制度の積極的な活用による収支改善のため、一般会計からの負担金が減となったこと等により、前年度に比べ2.5%減の67億9,913万9,782円となりました。
 - (2) 主な収益的支出としては、職員数や患者数の増等に伴い給与費や材料費が増となったものの、旧病院建物や構築物の除去に伴う資産減耗費の大幅な減などにより、医業費用が前年度に比べ4.8%減の211億8,853万5,962円となりました。
- 4 資本的収支は、新病院建設事業に係る収入、支出が減少したことにより、収入が前年度と比べ48.3%減の17億5,356万3,529円、支出が前年度と比べ35.2%減の29億2,399万5,811円となりました。
 - (1) 医療器械としては、医療業務の向上を図るため、生理検査システムエコー連携や超音波画像診断装置、インターネット環境機器など124品目を5億7,444万4,596円で購入しました。
 - (2) 病院敷地整理事業としては、病院敷地内の一般会計所管の土地について、当センター所管の土地とするため、31筆を3,363万7,675円で購入しました。
- 5 新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、中長期的な見通しを立てにくい状況にありますが、当センターでは、今後も感染状況を見極めながら、引き続き、地域の中核病院として、感染症への対応と救急医療や周産期医療といった通常医療との両立を図るとともに、医療の質の向上と患者サービスの充実に努め、将来にわたり持続可能な病院経営の確立に努めて参ります。